

遺伝子は世界を変えるか

自治医科大学名誉教授 長野 敬氏

◆ DNA伝説

ドロシー・ネルキンほか著（紀伊国屋書店）

◆ 遺伝子問題とはなにか 青野由利著（新曜社）

◆ DNAからみた生物の爆発的進化

宮田隆著（岩波書店）

遺伝子は世界を変えな
魂に相当するもの」と受け
い。ものとして見た遺伝子
は紛れもなくDNA（デオ
キシリボ核

多面的な戦略を解説

酸）という物
質であり、物

質はそれ自身が先頭に立っ
てなにかを変えたりしない
からである。譜面台に乗せ
た楽譜はオタマジャクシの
連なりであり、これを演奏
家が使って楽曲を世に送り
出す。同様に、遺伝子「を」
使って人々・医学・企業が
世界を変えるのだ。遺伝子
が単なる分子から出世し
て、「俗界において人間の

逆立ちしている現状の通観
が必要だ。

ドロシー・ネルキンほか
著『DNA伝説』（工藤政
司訳、一九九七年）は、特
に大衆文化での遺伝子（II
DNA）の扱われ方を、事
件報道や漫画も含め、あら
ゆるメディアから拾い出し
て、一見羅列的だが、真の
発展はこれからである。

（II DNA）の扱われ方を、事
件報道や漫画も含め、あら
ゆるメディアから拾い出し
て、一見羅列的だが、真の
発展はこれからである。

を使っていく戦略について
の、多面的な背景が提供さ
れる。新しい世紀と言わず、
遺伝子技術はすでに使われ
始めて医学（遺伝子治療と
診断）、農業（家畜育種や
遺伝子組み換え）いわゆる
GM作物）、法廷（DNA
鑑定）を変えている。利
用の現状は青野由利「遺伝
子問題とはなにか」（二〇
〇〇年）に幅広くまとめら
れている。宮

田隆『DNA
からみた生物